

# 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970200388		
法人名	有限会社サン企画コーポレーション		
事業所名	グループホームゆかりの里苑		
所在地	大和高田市松塚850-3		
自己評価作成日	令和4年6月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2970200388-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosvoCd=2970200388-00&amp;ServiceCd=320&amp;Ivpe=search</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット
所在地	奈良市高天町48番地6 森田ビル5階
訪問調査日	令和4年7月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自社の畑で野菜を意匠権名に育てています。じゃがいも、サツマイモ、人参、玉ねぎ、白菜、キャベツ、大根、里いも、落花生、南瓜、冬瓜、スイカ、メロン、ブルーベリー、みかん、レモン等、入居者様に美味しいと言って召し上がっていただきたく頑張っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は近鉄沿線の駅近くで、周りは古くからの住宅や森、神社に囲まれた静かな環境にある。ボランティア経験豊かな管理者がグループホームを立ち上げてから20年となり、現在も困難状況にある利用者を受け入れたりと、行政にも積極的に協力している。日常では生活リハビリを意識し、認知症の予防改善のため学習療法や回想法を取り入れている。自家農園でとれた無農薬野菜をふんだんに使い、手作りの食事を毎日提供しており、パースデーケーキやおせち料理も手作りしている。「食べて笑顔を増やす」をモットーに利用者の笑顔が1回でも多くみられるよう、全職員で支援している。自治会総代が「グループホームがあることで福祉に目覚めた」と言われるほど、地域に溶け込んでおり、地域の身近な介護相談の場としても頼りにされているグループホームです。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目的つきやすいところに掲載している。 また、ロッカー室にもあり、理念を共有している。	理念は玄関ホールに、スタッフのロッカールームには理念と共に「目標のある人は夢を語る」を掲示し、職員・来訪者で共有している。目標については年頭やミーティング時に職員からいろいろ提案されている。今年は「コロナを食い止める」という強い信念で仕事をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	行政の行事にも参加(コロナの影響でこの2年間は中止)し、交流している。	比較的、閉鎖的な土地柄で、設立当時は受け入れ反対もあったが、20年たった今では自治会総代が「グループホームがあることで福祉に目覚めた」と言われるほど、地域に溶け込んでいる。施設の畑づくりには地域の方々の協力があり、野菜やお花を届けていただくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	AEDの設置所として、また介護保険で解らない事等、気軽にお見えいただけるよう発信している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の総代、民生委員、老人会、地域住民の代表者の方々が出席していただく会議で上記の件も伝えている。	運営推進会議は従来は、2か月に1回、総代、副総代、民生委員、市担当職員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催していたが、現在はコロナ禍のため書面会議としている。総代は広報を届てくれた際に、色々な地域の情報を知らせてくださり感謝している。	コロナ禍での新入居者が6名おられるが、現在は運営推進会議に参加できない状況です。外部評価の結果を家族に郵送して、ホームを知っていただくきっかけ作りとなるよう希望します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	第一層生活支援体制整備協議会のメンバーになっており(当施設長)行政との繋がりがある。	生活保護受給者が過半数おられ、市の担当課とは密接に連絡を取り合っている。コロナ感染防止対策については指導を受けている。管理者は大和高田市の第一層生活支援体制整備協議会(地域の見守り)のメンバーとして、高齢者の困りごとの相談に応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	特別な状況以外は、身体拘束をしない取り組みをしている。必要時はご家族にも相談をし許可をもらっている。	身体拘束廃止委員会は管理者・リーダー・サブリーダーで話し合っている。テーマがない時は、月刊誌「介護ビジョン」「もう1つの世界」を読み、利用者の心理について発表し合っている。玄関は施錠していないが、階段は安全のため鍵をかけ、昇降機はロックしている。2年前に骨折の恐れがあるので、家族の了承のもと車いすのベルトを使用した例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会も定期的に行っており、ミーティングでも話あっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居さんの何名かはお世話になっています。必要に応じて対応させていただいております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	各項目を読み上げ説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お目にかかった時にはいろいろお話をさせて頂いている。またご意見等は聞き漏らさない様、なんでも反していただけるよう心がけている。	コロナ禍以前は、別棟でのオレンジカフェに家族が来訪した時、意見をいただいていたが、現在は玄関先で15分と面会制限しているため、家族からの意見を聴けていない。	家族の意見を聴くために、毎月の請求書やケアプラン、外部評価結果等を送付する際に、意見をいただける用紙を添付するなどの工夫が望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等では必ず職員の意見を聞かせて頂くようにしている。	月1回のミーティングで職員全員の意見を聴いて業務やケアに反映している。食事メニューの新たな発想やオムツ外し等のケアについての新しい取り組みなどに加え、「8月から理念を唱和しよう」と職員から提案があった。個人面談では、最近コロナ対応について悩みを訴えるスタッフがいたが、乗り越え復帰している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の思いや希望等聞かせてもらい。本人の思いに添える様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政の研修等参加してもらっている。研修費や交通費、当日の給与にも配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会等を通して相互間の交流にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人、ご家族にお話しを聞かせて頂き、それぞれの思いに添うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人はもちろん、ご家族の為に介護保険制度がある事を伝えるようにして、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所されるときは、必ずご家族やご本人にお目にかかり、日常のご様子、特に困りごとなどを聞かせて頂き対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	親子や兄弟のような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にもお尋ねさせて頂きながら、またお力も借りながら両面より支えさせてもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方々の来苑時は、一緒にお茶を飲んでいただいたりして、馴染みの関係を大切にしている。	家族の面会は、昨年末まで時間制限をして別棟のオレンジカフェでしていたが、現在は玄関先で15分の面会となっている。知人や近所の人とも交流ができず苦慮しているが、お花を持ってきてくださった人とガラス越しの面会など工夫している。携帯電話を利用している方はおられない。利用者は居室での訪問理容を喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や、合わない人等、孤立しないよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの要望にも相談にのったり、時にはお伺いもしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の業務の引継ぎやミーティング等、職員からの意見や感じたことを聞き逃さない様にしている。	利用開始時に家庭訪問や施設訪問をし、本人や家族から希望や悩みを聴きとり、アセスメントシートに記録し職員で共有している。1対1の脳トレや回想法で会話しながら傾聴したり、「大人の学校」を取り入れ、脳の改善を目指している。日々の会話の中でも思いや意向を把握しており、日報に記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴を大切に、今後もその方らしく過ごして頂けるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを大切にADLに添って支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員にも日々の気づきや対応等を聞き、一緒に計画を作り上げている。	入居当初に本人の表情や会話の反応を細かく観察・記録し、ミーティングで話し合い、初回の介護計画につなげている。目標は「笑顔の見られる暮らし」としており、6か月ごとに介護計画を更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日報記録で情報を共有し、対応の見直しや、その時に合った対応に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	朝夕の申し送りのニーズに即対応している。少しの変化も見逃すことのない様、心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々にも助けて頂き、楽しい時間を過ごして頂けるよう心掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自身には職員の同行や送迎等支援している。	利用者全員が月2回、事業所のかかりつけ内科医の訪問診療を受けている。精神科には月1回管理者が付き添い受診し、月2回歯科衛生士が口腔ケアに来てくれる。耳鼻科の補聴器外来、整形、他科は原則家族が付き添い受診している。看護師が常駐しており、情報管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間医療との連携をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有や、退院のその後についても、相談、対応等できるような関係が続いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とは何度も話し合いをし、ご希望に添いながら今後の支援について話合っている。	看取り指針は明文化しており、利用開始時に家族と本人に説明している。看取り開始時には同意書を交わしている。今年は1名の利用者を看取り、多くを学んだ。聞きなれた声や笑い声を聞きつつ、見慣れたスタッフに世話をしてもらい、「ここで暮らしてよかった」と心から思いつつ最期を迎えてほしいと願っている。今のところ、希望で病院で亡くなる方も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や、事故対応には対応できるよう、事例を参考にし、勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者さんも参加の避難訓練、消火、通報など、職員共ども行っている。自治会とも協力体制を築いている。	コロナ禍のため、避難に何分かつたなど前回の経験をもとに、消防署のアドバイスを受けて年2回、図上での訓練を行っている。地域の自警団との電話連絡のルートを確認している。自家発電装置や2階からの非常階段があり、食料など備蓄している。近くに川があり、水害の時はゆかりの里苑が地域の避難場所となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご自身の本位を尊重し、失礼のないよう心掛けています。	利用者一人ひとりの人格と尊厳を大切に対応している。その人らしい暮らしを支援して、プライバシーを尊重している。接遇で問題があれば、その場ですぐ注意喚起するなどしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけにも、ご自身で決定出来るよう心掛け、決して否定することのないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや希望、体調等も考慮し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選んで頂いたりしているが、できない方は職員がしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下準備のお手伝い、配膳前のテーブル拭き、食後の片付け、食器を拭いたりもして下さっています。	リビングにしながら食事作りを五感で楽しむことができるよう工夫されている。食事は自家農園で採れた無農薬野菜をふんだんに使い、職員が手作りしている。地域の人から頂いた野菜でメニューを考えたり、梅、しそ、イチゴ等季節のものを利用したお菓子づくりを楽しんで、誕生日ケーキも手作りしている。たこ焼きやお好み焼きをして変化を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態、水分等のトロミ等、一人ひとりに合わせた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員による口腔ケアを月2回の司会による往診を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日報の記録や、排泄リズムに添った支援。トイレ誘導にも声掛けによる前誘導にて自立を目指している。	排泄は、排便ノートと日報に記録して排泄リズムを把握している。トイレに声かけ誘導することで排泄自立支援に重きを置いている。水分補給を十分心がけているが、3日間排便がない時には薬を服用するなど、細やかに管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や水分量に気配りと、ラジオ体操や、リハビリ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	排泄で汚れた時や、散髪時等シャワーや入浴対応をしている。	週2回の入浴を原則とし、必要に応じてシャワーで対応している。浴室入口に暖簾をかけて雰囲気づくりをし、入浴を拒否する方には、好きな歌をかけたり誘いを工夫している。しょうぶ湯、ゆず湯で楽しんでいただいている。水虫対策として、タオルやマットの使用には十分気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室だけでなく廊下の長イスに昼寝をされることもある。電気やカーテンにより明るさの調整ができる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解をしています。服薬だけに頼らず、対応できるよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	視力の弱い方、難聴の方等、その方の出来ることを大切にレクや、お手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族との外出や、桜の時期などはお花見にも出かけます。馬見丘陵公園にもでかけます。	コロナ禍以前は毎日散歩したり、地域の夏祭り・秋祭り・ハロウィンに参加していた。現在はあまり外出できていないが、ホーム内でお祭りをしたり、玄関先のベンチでおしゃべりやお茶を楽しむなど、職員は「笑顔を増やす」ケアに努めている。近くのお地藏さんや神社まで歩き気分転換している。7月の蓮池行事も混雑を避け、前日に蓮池に行き神社に参拝した。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が所有されていることはなく、ご家族や、後見人の方が管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やハガキ等書いて頂き発送している。手紙のやり取りをされている方もおられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの自席以外で過ごされる方もおられ、また長椅子でお話されていられる方もいる。	リビングは南向きで掃き出し窓があり明るく、整理・整頓・清掃・清潔(5S運動の一環)に気を付け、利用者が廊下のソファで昼寝するなど寛いでいただけるように整備している。季節の花や利用者の作品を貼って楽しんでいただいている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人用の椅子や長椅子が廊下にある、一人の時間や、また気の合った者同士話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや見覚えのある品々を配置され、部屋で安心して過ごしてもらえる工夫をしている。	居室の入口には大きく名前を書いた表札を掲げ、室内は備品以外は各自で自宅より馴染みの物を持ち込まれて、本人や家族の好みに配置されている。仏壇を持ち込まれたり、お気に入りの写真や置物を飾り、自分らしくつろげる空間を作られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方のADLに合わせ、見守りやまたお部屋の位置も配慮している。		